

市民の手で市民活動を支える

認定 NPO 法人

宝塚 NPO センターニュース

2013
December

No.77

発行人：牧里 每治
編集人：中山 光子

このニュースの編集・発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています。

特別企画第2段！

地域と「NPO」を語る

15周年企画第2段。地域で活動されている自治会やコミュニティの方にとって、NPOはどのように見えるのか、また地域とNPOがつながる場がどうあるべきか。ソリオ宝塚自治会長小淵伸太郎さん・塔の町自治会長と良元コミュニティ副会長の中義昭さん・コミュニティ長尾福祉部会長古田時子さんにお話をうかがいました。



塔の町自治会 中義昭さん

◆古田：コミュニティ長尾は色々な団体が活動に入ってもらっていて、例えば障がいがあってもなくても、集まれるサロン作りを手伝って頂いています。また長尾地域では学童保育が満杯で入れないという状況がずっと続いており、市と協働事業を進める

ために平成19年NPOをコミュニティで立ち上げました。コミュニティが立ち上げたNPOという形でコミュニティの組織表の中にもちゃんと入れてもらっているんです。

◆中：羨ましいです。一般的に任意団体もしくはNPOに属するような活動は意外と地域の人には認知されていません。逆にやっているNPOの人たちは地域に入り込めなくて意思疎通がむずかしいというのが実態です。どうしても心の壁を取り除けない。だから今そういう話を聞いて、僕はすごいなと思ったのは自らNPOを立ち上げて、自ら一緒にやってる。これ以上のことはありませんね。

◆古田：最初は大変でした。役員会でもう喧々諤々でそんなもんいらんとかね(笑)

◆中：外部との繋がりからいろんな情報が入ってきますよね、外側の情報がね。外側の情報の中に入れられるから、

他団体と地縁団体とのパイプの役割は大きいですよ。

◆小淵：うちの場合、宝塚NPOセンターさんに自治会事務局を5年以上お願いしています。正直、会長職の仕事に専念出来るのはとてもありがたいんです。

◆中：コミュニティで考えたときにね、自分で全部やってしまう。「自分で手弁当でするのもなんかいいんだよ」みたいなのがあるんです。それはそれでいいと僕は思うんですけどね。どんどん高齢化が進んでもう手に負えなくなって誰かに助けを求める状態になってるのは間違いない。

◆古田：本当にもう地縁組織は高齢化です。皆負担になってきて正直、いろんなことがね。地域包括支援センターに、介護の関係の相談をお願いをする。中筋児童館にも子育て関連のイベントや相談をお願いしています。ある意味、事務局が少し手を抜かないと。何から何まで高齢者ばかりでやってられないから。一つ一つの活動を随分皆さんにお願いをしながら、してるんですよ。

◆小淵：例えば地域の困りごとがあるとして、一体どこへ相談にいったらいいんだろうという思いもありますね。

◇中山：そうですね。地域の課題を本当はコミュニティとか自治会の方たちがNPOを通じて知ることできるし、逆にNPOに「こんな地域課題あるよ」って投げてください、お互いに手伝えるところを手伝うこ



コミュニティ長尾 古田 時子さん



ソリオ宝塚自治会 小淵 伸太郎さん

⇒次ページ下段につづく

特集：「協働」の足音

NPO 法人シェアフィールド訪問

今回ご紹介するのは今年5月に設立したNPO法人シェアフィールド。9月から放課後児童健全育成事業として宝塚小学校区の学童保育待機児童支援を「アミークラブ sakae」の名前で始められました。

NPO 設立のきっかけは2年前に社会起業家を目指す講座への参加。別事業を「大阪で…」というアドバイスもあった中、自分たちの住む地域をよくしていきたいというキモチが宝塚での起業となったのだとか。今事業に着目されたのは「少子化」と言われ、子どもの数は減っている一方「子どもを預けて働く」ニーズが宝塚では増



えているとの分析から。現在、宝塚市や同じ事業を実施しているNPO法人長尾すぎの子クラブさんそして様々な方々からの支えがあり、現在6名の児童の放課後支援をされています。

「地域の“タカラ”は、その地域の人たちです。その地域の方々の思いやりを肩肘はらずに共有（＝シェア）して支え合う場所（＝フィールド）になればと思って活動しています。」と理事長永井麻子さんの言葉。

「協働」で地域課題に取り組むNPOの足音が宝塚市内で着々と広がっています。（YK）

とで、協働で地域課題を解決していくような。そんな風通しの良い関係ができれば良いですね。

◆中：地域もNPOも自助でやれることはやってるんだと思います。ただ新たなことって不安ですよ。新たなところと手を組むと世界が広がるでしょ。自分たちの知らない世界。そこに任せてしまうことになるから自分の軸足がどこ行くかわからなくなる。だから相談する方も不安なんです。みんな相談できない、というのが正直なところだと思います。

◆小淵：ただ、宝塚にある97団体のNPOがやっていることが耳に入ってこない。自分たちが何をしたいんだろうということを主張というのかな。NPOももっと宣伝してもいいと思うんです。近頃、NPOの方々から名刺をいただくことが多いですよ。でも名刺を渡すだけで、しっかり活動のPRをしない。何をやっているNPOさんかハッキリ分からない。

◆中：例えば自治会やコミュニティに行って「こんなふうなこと私やってるんですけど、如何ですか」という話を、

水を向ければね、「じゃあこれ頼むよ」ってくるかもしれない。ソーシャルビジネスとしてね。まち協とか自治会も、抱えてる課題を解決しようと思ったら、自分たちのノウハウだけでは難しいんです。お互いに意見交換したり相談をしたりしていく必要がありますね。

テーマ型のNPOと地縁団体とのネットワークは難しいと言われることが多いのですが、果たして事実なのか。お互いに出会う場がない、気になるけれど何を話しかけて良いのかがわからない。このタテ割りを乗り越えお互いを認め合いながら会話をする場を作り、地域のおつきあいの作法を学ぶ事ができれば、NPOの活動する場はますます拡大し、良い地域が作れると確信させていただいた時間でした。私たち中間支援NPOがコミュニティで果たす役割は「地域のヨコ串」。現在、宝塚NPOセンターで月1回実施している「きょう・どう井戸端会議」が出会いの場となることを希望しつつ、お忙しいところ時間を作ってくださいました3名の地域活動家の皆さまに感謝いたします。（N）

宝塚地域若者サポートステーション開設から6ヶ月 中間支援の強みを活かした直接支援

5月17日に「宝塚地域若者サポートステーション」(以下ツカサポ)が開設されてから6ヶ月が経過。この事業を受託する4年前から「宝塚市若者就労支援事業」を実施し、若者の就労支援の必要性を十分すぎるほど感じていました。常設の相談窓口を設け、いったい何人の相談者が利用されるか不安の中、11月までに就労相談に訪れた15歳から39歳までの若者は220名。その中で就職できたのは69名。(図1参照)

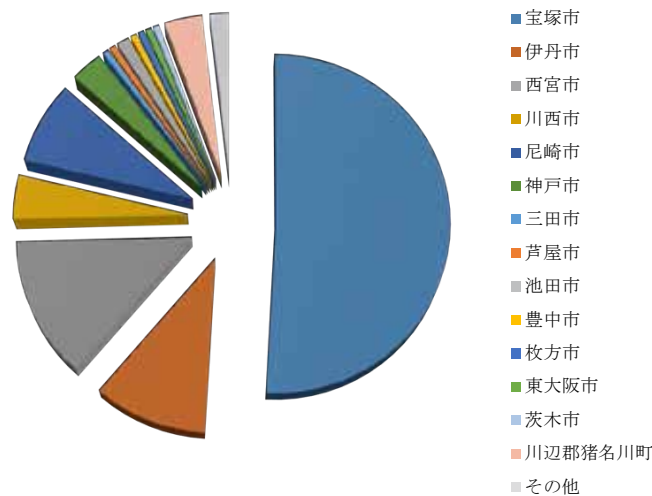
全国160ヶ所にある地域若者サポートステーションの内中間支援NPO法人が実施している若者サポートステーションは多くなく、ほとんどが不登校支援や引きこもり支援、青少年支援を専門にしている団体が実施しています。中間支援NPO法人として兵庫県では、コムサロン21さんが5年前からこの

事業を受託され「姫路おでん」をキーワードにして地域活性化を中心とした若者支援に取り組まれています。

ツカサポではキャリアカウンセリングと同時に、コミュニケーション力を学ぶ・職場体験を行う・生活リズムを整えるなどの目的で多くの講座を実施しています。これらの講座は中間支援らしく多くの方との協働で実施され、若者の就職も地域の方々にご協力をいただいている



す。11月に開催された「職業人セミナー」では、東日本大震災支援のために開催している「お茶っこカフェ」を通じセンターの支援者となっただいている「ツレがウツになりまして」の作家細川貂々さんとツレさんのお二人にマンガ家になるまでのお話を伺いました。また、実際に職場を見ることで「仕事」のイメージを固める「職場見学」では、今里食品(株)・(株)ナルトシザー・あいあいパーク・アシックス商事(神戸市)にご協力をいただいています。私たちはこの繋がりを大切に地域の発展とともに若者を支援し続けていきたいと考えています。(N&K)



(図1) 登録者住所

生きがいごとサポートセンター事業 輝くシニアの取組みに学ぶ

シニアの方々がボランティアや就労、起業を通して、地域社会との関わり方を学ぶシニア大学。10月は宝塚の教室から少し離れ、地域づくりの現場とそこに携わる人達から学ぶ研修ツアーを開催しました。行先は「養父市大屋町アート村」。

廃校となった高校の体育館を再生した美術館、地域資産である木彫アート、養蚕農家の街並の保存、有機農業の取組など、大屋地域局の和田局長

とNPO法人おおやアート村の田中理事長にご案内頂きながら、32名の学生が大屋町の取組みを目と足で学びました。30℃を超える季節外れの残暑の中、シニアの学生は少しお疲れの様子となりましたが、兵庫県の真ん中の過疎が進む山間地で、地域住民が一丸となって地域を元気にしている姿は、学生の心に強く焼き付いたようでした。学生を乗せた帰りのバスは宝塚にゆっくりと向かっています。次は宝塚でみなさんが生きいきと輝く番です。(W)

NPO NEWS&INFORMATION

阪神・淡路大震災 1.17 追悼・防災啓発行事 宝塚 語りつぐ震災～災害でいのちをなくさないために～

阪神・淡路大震災から19年、東日本大震災から3年が経過しようとしている今、震災を風化させないため、その体験を語りつぐとともに、震災から得た教訓を活かして「安全で安心なまちづくり」について考えます。

- ・日時 1月9日(木) 13:30～16:00 ・参加費 無料(定員150名) 託児有(要予約)
 - ・場所 宝塚市立西公民館(阪急小林駅下車すぐ)
 - ・基調講演 山中 茂樹氏 「防災」から「事前復興」へ～生かせKOBE・TOHOKUの教訓～
関西学院大学教授 災害復興制度研究所主任研究員
元朝日新聞編集委員
 - ・パネルディスカッション「語りつぐ震災～安全で安心なまちをめざして～」
コーディネーター 魚住 由紀さん(フリーアナウンサー 防災・復興コミュニケーター)
パネリスト 山中 茂樹さん
佐藤 愛弓さん(宝塚在住 東日本大震災体験者)
久下 等さん(宝塚・防災リーダーの会 元宝塚市消防監)
- お申込み・お問い合わせは 宝塚NPOセンター 0797-85-7766まで



山中 茂樹氏

ご支援ありがとうございます(順不同、敬称略 期間:2013.12.6まで)

●新たに入会された皆さん

【団体正会員】NPO法人川西市手をつなぐ育成会・武庫川がっこう・NPO法人アミーゴ・NPO法人HappyHappy・NPO法人ほっと宝塚子育てネットワーク(申請中)【賛助会員】金井塚美根・山添令子・藤田浩

●寄付をいただいた皆さん

ろうきんNPO寄附システムご利用の皆さん・NPO法人国際交流団体未来・山添令子・NPO法人いきいきシニアゼミナール・石田隆章・NPO法人ハッピーライフ福祉会・NPO法人ほっと宝塚子育てネットワーク(申請中)・中村豪・小池由佳・山口耕平・橘田てつ子・中山光子

会員募集・継続のお願い

宝塚NPOセンターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。
※認定NPO法人への寄付は税制面で優遇されます。

	個人正会員	団体正会員(NPO法人他)	法人正会員	賛助会員
会費	10,000円	10,000円	30,000円	3,000円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京UFJ	
支店	阪急宝塚出張所	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
カナ	トクテイヒエイリ タカラヅカエヌピーオーセンター	タカラヅカエヌピーオーセンター
口座名義	(特)宝塚NPOセンター	宝塚NPOセンター

オンラインで
会員登録・寄付が
出来るように
なりました!



<https://mp.canpan.info/zukanpo/>

認定NPO法人 宝塚NPOセンター

〒665-0845
宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F
Tel: 0797-85-7766
Fax 専用: 0797-85-7799
利用時間: 9:00～18:00
休館日: 月・日・祝日・年末年始
Email: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net

生きがいしごとサポートセンター阪神北
Tel: 0797-87-4350
Fax 専用: 0797-85-7799
Email: cdc@hnpo.net
URL: http://cdc.hnpo.net

宝塚地域若者サポートステーション
〒665-0845
宝塚市栄町1-1-9
アールグラン宝塚2F
Tel: 0797-69-6305
Fax: 0797-69-6315
Email: zukasapo@hnpo.net
URL: zukasapo.hnpo.net

紙面に関するご意見・ご要望を左記までお寄せください。